

平成30年度佐賀県小・中学校学習状況調査〔4月調査〕の結果について

1 平成30年度佐賀県小・中学校学習状況調査〔4月調査〕

(1) 目的

当調査は、佐賀県教育委員会が、市町教育委員会の協力を得て実施するもので、学習指導要領に示されている目標や内容の定着状況、学習に対する意識・態度や生活習慣及び教師の指導に関する意識を把握し、教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てることを目的としています。

なお、学力向上の検証改善サイクルを確立するため、4月と12月の年2回実施しています。

(2) 4月調査の実施内容

① 調査実施日 平成30年4月17日（火曜日）

② 調査対象 小学校調査

- ・小学校5年生、6年生
- ・義務教育学校前期課程5年生、6年生
- ・県立特別支援学校小学部5年生、6年生

中学校調査

- ・中学校1年生、2年生、3年生
- ・義務教育学校後期課程1年生、2年生、3年生
- ・県立特別支援学校中学部1年生、2年生、3年生

③ 県内公立学校の実施学校・児童生徒数（分校を含みます。）

	学 校 数	児童生徒数
小学校調査	165校	15,133人
中学校調査	95校	21,364人

(注) 小学校調査は、義務教育学校前期課程（6校）及び県立特別支援学校小学部（4校）を含みます。

中学校調査は、県立中学校（4校）、義務教育学校後期課程（6校）及び県立特別支援学校中学部（5校）を含みます。

④ 調査教科

- 小学校調査5年生 国語、算数
- 6年生 国語、算数、理科
- 中学校調査1年生、2年生 国語、数学
- 3年生 国語、数学、理科

(注) 小学校調査6年生及び中学校調査3年生の国語、算数・数学及び理科は、全国学力・学習状況調査問題を用いています。

2 調査結果の概要

学力は、知識や技能に加えて、自ら学び、判断・行動し、問題解決する資質や能力等までを含めたものです。今回の調査結果は、学力の特定の一部であり、学校における教育活動の一側面を示すものです。

(1) 教科に関する調査の結果

① 県全体の状況

各学年・各教科の県平均正答率は、以下のとおりです。

[各学年・各教科の県平均正答率]

学年	小学校5年生		小学校6年生			中学校1年生		中学校2年生		中学校3年生		
教科	国語	算数	国語	算数	理科	国語	数学	国語	数学	国語	数学	理科
県平均正答率 (%)	66.6	70.6	65.0	57.0	61.3	69.5	67.1	59.1	53.8	70.8	58.9	62.4

- 設問内容からみた正答率では、国語は、漢字の読みなどの基礎的な問題は正答率が高く、条件に合わせて自分の考えをまとめて書く問題は、依然として低い傾向にあります。
- 算数・数学は、小・中学校ともに計算問題の正答率が高く、考え方や理由を記述により説明するような問題は、依然として低い傾向にあります。
- 理科は、自然事象についての基礎的・基本的な知識と理解を問う問題は正答率が高く、結果を見通して実験を構想したり、観察・実験の結果を考察したりする問題で正答率が低い傾向にあります。

[各教科において正答率の低い傾向にある設問内容]

【国語】

- ・ 文章の内容を踏まえ、引用や要約をする問題
【小学校5年生】（正答率 24.7%）
- ・ 資料にある文を引用して、自分の考えが伝わるように書く問題
【中学校1年生】（正答率 41.2%）

【算数・数学】

- ・ 示された図や表を基に、伴って変わる二つの数量の関係を調べる問題
【小学校5年生】（正答率 40.0%）
- ・ 与えられた情報を基に、 x と y の関係が反比例である理由を説明する問題
【中学校2年生】（正答率 39.8%）

② 地域別の状況

県内5地域(※)の教科別平均正答率の対県比は、以下のとおりです。

[県内5地域における各学年・教科の平均正答率の対県比]

学年・教科		実施年度	対県比(地域平均正答率/県平均正答率)				
			佐城	三神	東松浦	杵西	藤津
小学校5年生	国語	H30	1.01	0.99	0.99	1.01	0.98
		H29	1.03	0.97	0.95	1.00	1.06
	算数	H30	0.99	1.01	1.00	1.01	0.99
		H29	1.01	0.99	0.97	1.01	1.04
小学校6年生	国語	H30	1.00	1.02	0.98	1.01	0.97
		H29	1.01	1.02	0.96	0.98	1.02
	算数	H30	1.01	1.01	0.97	1.01	0.99
		H29	1.02	1.02	0.97	0.98	0.99
	理科	H30	1.00	1.01	0.98	1.00	1.01
		H29	-	-	-	-	-
中学校1年生	国語	H30	0.98	1.02	0.99	1.02	0.99
		H29	1.00	1.02	0.97	1.01	0.99
	数学	H30	1.01	1.03	0.97	0.99	0.98
		H29	1.01	1.02	0.97	1.00	0.97
中学校2年生	国語	H30	0.99	1.05	0.96	1.01	0.97
		H29	1.00	1.02	0.97	1.01	0.95
	数学	H30	1.01	1.05	0.91	0.99	1.01
		H29	1.06	1.00	0.89	0.98	1.03
中学校3年生	国語	H30	0.99	1.04	0.97	1.00	1.00
		H29	1.00	1.03	0.97	0.99	1.00
	数学	H30	1.02	1.04	0.94	0.98	1.02
		H29	1.01	1.02	0.94	0.98	1.07
	理科	H30	1.01	1.03	0.94	0.99	1.00
		H29	-	-	-	-	-

(注) 対県比は、県平均正答率を1.00として算出

- 10区分(小学校6年生及び中学校3年生の理科を除く。)中7区分で地域間の学力差が縮小しています。
- 県内5地域の対県比において、最も地域間の学力差が小さい学年は小学校5年生で、最も大きい学年は中学校2年生です。

(※) 県内5地域及び地域内の市町

地域名	市町名
佐城	佐賀市、多久市、小城市
三神	鳥栖市、神埼市、吉野ヶ里町、基山町、みやき町、上峰町
東松浦	唐津市、玄海町
杵西	武雄市、伊万里市、白石町、大町町、江北町、有田町
藤津	鹿島市、嬉野市、太良町

(2) 生活習慣や学習環境等に関する調査の結果

児童生徒と学校を対象とした生活習慣や学習環境等に関する調査結果の概要については、以下のとおりです。

① 児童生徒質問紙調査

「当てはまる」「どちらかといえば、当てはまる」などの割合 (%)】

質問事項		県	(H29)	佐城	三神	東松浦	杵西	藤津
将来の夢や目標を持っていますか。	小学生	87.3	(88.3)	87.5	86.8	88.4	87.3	85.6
	中学生	76.4	(76.7)	76.2	77.2	74.5	77.2	77.6
人の役に立つ人間になりたいと思いますか。	小学生	95.9	(94.1)	96.1	95.8	96.4	95.2	95.8
	中学生	95.9	(95.2)	96.0	96.6	94.5	95.6	97.3
算数(数学)の授業で問題の解き方や考え方が分かるようにノートに書いていますか。	小学生	88.3	(88.4)	89.1	88.2	85.5	89.0	89.0
	中学生	84.8	(87.0)	86.4	86.1	76.9	86.3	87.0
学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができますか。	小学生	73.9	(70.7)	74.5	72.9	71.9	74.6	76.7
	中学生	79.0	(76.0)	80.7	80.3	76.7	77.0	78.7
家で自分で計画を立てて勉強をしていますか。	小学生	67.8	(65.1)	68.5	66.8	68.0	66.5	70.0
	中学生	58.4	(58.8)	59.8	59.9	53.8	58.5	58.4
学校の授業時間以外に、普段(月～金曜日)、1日あたりどれくらいの時間、勉強をしますか。(学習塾で勉強している時間や家庭教師の先生に教わっている時間も含まれます。)(1時間以上)	小学生	62.5	(61.4)	63.6	64.1	59.7	62.4	59.5
	中学生	62.5	(62.5)	63.4	63.3	56.6	64.5	64.3

- 「将来の夢や目標を持っている割合」は、小学生は昨年度より減っており、中学生は昨年度と同程度です。
- 「人の役に立つ人間になりたいと思う割合」は、小学生は昨年度より増えており、中学生は昨年度と同程度です。
- 「算数(数学)の授業で問題の解き方や考え方が分かるようにノートに書いている割合」は、小学生は昨年度と同程度ですが、中学生は昨年度より減っています。
- 「話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができますか」は、小・中学生ともに昨年度より増えています。
- 「自分で計画を立てて勉強をしている割合」「平日の勉強時間(1時間以上)の割合」は、小学生は昨年度より増えており、中学生は昨年度と同程度ですが、依然として低い割合のままです。

② 学校質問紙調査

「よく行った」「どちらかといえば、行った」の割合(%)

質問事項		県	(H29)	佐城	三神	東松浦	杵西	藤津
将来就きたい仕事や夢について考えさせる指導を行いましたか。	小学校	82.9	(70.9)	86.9	83.3	84.4	77.5	81.3
	中学校	98.8	(98.8)	100.0	100.0	94.4	100.0	100.0
児童(生徒)の姿や地域の現状等に関する調査や各種データに基づき、教育課程を編成し、実施し、評価して改善を図る一連のPDCAサイクルを確立していますか。	小学校	91.8	(94.9)	95.7	100.0	96.9	87.5	68.8
	中学校	96.5	(90.7)	100.0	92.9	94.5	100.0	87.5
習得・活用及び探究の学習過程を見通した指導方法の改善及び工夫を行いましたか。	小学校	96.2	(91.1)	93.5	95.8	93.8	100.0	100.0
	中学校	95.3	(89.6)	96.0	100.0	94.4	95.0	87.5
近隣等の中学校(小学校)と、授業研究を行うなど、合同して研修を行いましたか。	小学校	74.6	(72.8)	60.9	91.6	87.5	75.0	62.5
	中学校	83.5	(84.9)	88.0	71.4	100.0	85.0	50.0
学校全体の言語活動の実施状況や課題について、全教職員の間で話し合ったり、検討したりしていますか。	小学校	98.7	(93.0)	95.6	100.0	100.0	100.0	100.0
	中学校	89.4	(87.3)	100.0	92.8	72.2	90.0	87.5
保護者に対して児童(生徒)の家庭学習を促すような働きかけを行いましたか。	小学校	99.4	(100.0)	100.0	100.0	96.9	100.0	100.0
	中学校	92.9	(90.7)	92.0	100.0	88.9	100.0	75.0
家庭学習の取組として、調べたり文章を書いたりしてくる宿題を与えましたか。	小学校	87.3	(89.9)	87.0	87.5	87.5	90.0	81.3
	中学校	62.4	(58.1)	64.0	78.5	50.0	60.0	62.5

- 「将来就きたい仕事や夢について考えさせる指導を行った割合」は、小学校は昨年度より大きく増えており、中学校は昨年度と同じですが、小学校と中学校の取組に開きが見られます。
- 「PDCAサイクルを確立している学校の割合」は、小学校は昨年度より減っており、中学校は昨年度より大きく増えています。
- 「指導方法の改善及び工夫を行った割合」は、小・中学校ともに昨年度より大きく増えています。
- 「学校全体の言語活動の実施状況や課題について、全教職員の間で話し合ったり、検討したりする割合」は、小学校は昨年度より大きく増えており、中学校でも増えています。小学校と中学校の取組に開きが見られます。
- 「保護者に対して児童(生徒)の家庭学習を促すような働きかけを行った割合」は、小学校は昨年度と同程度ですが、中学校は昨年度より増えています。
- 小学校で「近隣等の中学校と授業研究を行うなど合同して研修を行った割合」、中学校で「調べたり文章を書いたりしてくる宿題を与えた割合」は昨年度より増えてはいるものの、依然として低い割合であり、小学校と中学校の取組に開きが見られます。

3 今後の対応

児童生徒の学力向上のためには、一人一人に、しっかりと学習内容を習得・定着させることが最も大切であり、佐賀県小・中学校学習状況調査等の分析結果から課題を明らかにして、その解決に向け、各学校が学力向上におけるPDCAサイクル（検証改善サイクル）を徹底し、全職員で組織的かつ具体的な取組を行うことが不可欠です。

このため、県教育委員会では、関係各課室・所、教育センターが一体となり、学校、市町教育委員会、家庭・地域と連携しながら、引き続き以下の取組を通して総合的な学力向上を図っていきます。

(1) PDCAサイクルの徹底

調査結果をもとに、正答率や無解答率のみならず、誤答傾向や児童生徒のつまずきについての分析を行い、全職員の共通理解のもと、「学力向上対策評価シート」に基づく成果の継続と課題解決に向けた取組が行われるよう、各学校における検証改善サイクルの徹底を図ります。

(2) 活用力向上のための支援と地域間の学力差の改善に向けた支援

今回の調査においても活用力に課題があったことから、佐賀大学教育学部附属小・中学校とも連携するとともに、教科や校種の枠を超えた授業実践の充実を図っていきます。

また、地域間の学力差のさらなる縮小に向け、学力向上推進教員の配置による教員の指導力向上を図るとともに、小・中学校教科等部会との連携強化や授業改善リーフレット、中学校数学リーフレットの活用促進など、全県的な授業改善に取り組んでいきます。

(3) 家庭学習の充実に向けた取組

家庭での学習時間の確保が継続的な課題であることから、生活習慣を含めた家庭学習の充実に関する家庭の意識を高めていくための、家庭学習リーフレットの活用や市町教育委員会との共催による学力向上フォーラムの開催などに、家庭・地域の理解や協力のもと取り組みます。

また、家庭学習の質の充実を図るため、宿題の内容や量が児童生徒の学習内容や学習状況を踏まえたものになるよう、学校の取組を支援します。